

「原則予約」でCONPAS常時運用

■横浜港・本牧BC2、7月中旬から

横浜港・本牧ふ頭BCコンテナターミナル(CT)のBC2ゲートで7月中旬から、原則予約による新・港湾情報システム「CONPAS」の常時運用を開始する方針だ。国土交通省関東地方整備局が今月18日に発表した。BC2ゲートで搬出入受付を行う全ての実入り・空コンテナを対象に、CONPASを活用した予約を原則化することで、特定時間帯へのトレーラーの集中来場を平準化するとともに、ゲート前の待機時間を削減する。PSカードを活用したゲート受付時間の短縮や、予約情報を活用したコンテナヤード内の荷役効率化にもつなげ、CY内滞在時間の短縮を図っていく。

常時運用の開始日や利用手引きは、関東地方整備局が後日公表する予定。現時点の実施概要は、予約時間が全種別(搬出<実入り・空>、搬入<実入り・空>)で午前8時30分から午前11時30分、午後1時から午後4時30分となり、予約枠数は搬出

が3分当たり4~9台、搬入が3分当たり5~8台となる。予約時間枠の前後30分以内に予約状況確認場所へ来場する必要がある。予約期限は搬出入日の3営業日前の午後2時から入場可能時間終了まで。車両が予約時間に来場しない「すっぽかし」などに対するペナルティ制度も適用する。ペナルティは、横浜港の他の常時運用・試験運用ターミナルと共通で加算するが、本牧BC2では原則予約となるため、「利用停止」ではなく、「利用制限(当日のみ予約)」を適用する方針だ。

関東地方整備局は昨年度、横浜港・本牧ふ頭BC2で、原則予約の試験運用を計3回にわたって実施した。この結果、今年3月の試験運用では、平均20~30分程度のゲート前待機時間の削減効果が確認された。具体的には、実入り搬入は試験運用期間外の待機時間最大59分が試験運用期間中の待機時間最大25分に、最大

34分短縮された。空搬入は試験運用期間外の待機時間最大53分が試験運用期間中の待機時間最大20分に、最大33分短縮された。搬出は試験運用期間外の待機時間最大28分が試験運用期間中の待機時間最大10分に、最大18分短縮された。試験運用の結果を踏まえて今回、常時運用を開始することになった。

関東地方整備局は今後も、原則予約の実施ターミナルを拡大していきたい考えだ。既にCONPASを常時運用している南本牧ふ頭でも、将来的に原則予約を実現したいとするほか、現在、再編整備が進む本牧ふ頭D5ターミナルにおいても供用開始と同時に原則予約の常時運用を図っていきたい方針だ。原則予約が導入されれば、CONPASの利用率が高まるとともに、CONPAS予約車両を前提としたオペレーションに移行できるようになるため、ターミナルの運用効率も高まる見通しだ。